

北川の通信

発行 北川かっぱの会

<https://kitagawa-kappa.org/>

<http://kitagawakappanokai.cocolog-nifty.com/blog/>

2025年12月19日

vol.159

かっぱ通信

この形では最終号



報告 北川クリーンアップ

10月19日（日）、47名で北川のゴミ拾いを行いました。私は北山公園から下流へ向かうチームに参加しました。上流では河川内の草刈りが終わっていたため、ゴミは比較的拾いやすかったそうです。しかし、特定外来生物の水草「オオフサモ」がどのように処理されたのかが気かりでした。草刈りの際に切れた断片が流れ下ると、下流で定着し、生息域を広げてしまう可能性があるからです。

一方、下流は全体的にきれいで、やや手持ち無沙汰なほどでした（良いことなのですが）。北川クリーンアップは年2回の実施ですが、無い月には北山公園から北山小学校横の範囲で「北川水辺倶楽部」として年8回の清掃を続けています。その活動でも最近ではゴミが減っている実感があり、喜ばしい限りです。余談ながら、クリーンアップ後の6月は新緑、11月は紅葉が水面に映り込み、とても風情があります。私はその一帯を勝手に「北山溪谷」と呼んでいます（拡散希望）。

今回の下流チームには、東村山市シルバー人材センターのボ【P2へ】

ランティア12名も参加してくれました。精鋭揃いにもかかわらず目立ったゴミは少なく、良い傾向だと感じました。しかし、担当範囲の最下流に到達したところで「逆転満塁ホームラン」、自転車が1台落ちていました。久々の大物に一同やる気が再燃しました。

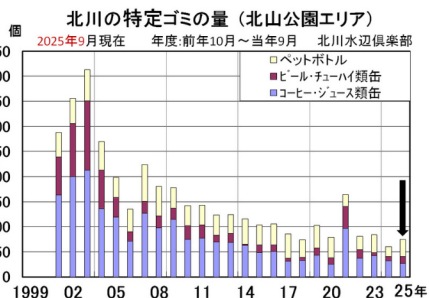
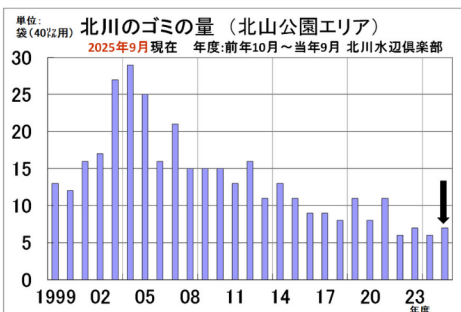
自転車は軽量のスポーツタイプで、皆で力を合わせて橋の付近まで引き上げることができました。もし電動アシスト付きの重い自転車だったら大変だったでしょうし、バッテリーの安全性も気になります。いずれにせよ、車種を問わず川に自転車を捨てるのは絶対にやめましょう。

《はんべえ&Chat-GPT》

報告 今年のゴミ調査結果

北川かっぱの会では、毎月第2土曜日の午前中に「定例川そうじ」を実施しています（北山小前～西武園線鉄橋下；3月～12月）。川そうじが終了した時に収集したゴミの仕分けを行い、そのゴミの量の計測を行なっていますが、このほど2025年度の調査結果（毎年10月～9月）がまとまりました。ゴミの総量（可燃ゴミ＋不燃ゴミ）は2004年度をピークに減少しているものの、ここ数年は6～7袋（40リッター用）という状況が続き、減少傾向とはなっていません（図参照）。

また、ゴミの内、缶やペットボトルなど「特定ゴミ」の個数は、最も多かった2003年度の413個と比較し減少してい



ますが、ここ数年は60～85本程度の状況が続き、減少傾向とはなっていません。さらに、ビンやワンカップなどについては、「危険ゴミ」として別途集計していますが、今年度は5本でした。

北川かっぱの会では、子どもたちが安心して遊ぶことのできる、地域の住民が愛着をもつことのできるような北川の川づくりを目指しています。引き続き、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

報告 今年度の魚類調査結果

別表は、9月14日に開催された北山わんぱくまつりにて魚類などを展示した際の記録です。

タモロコやモツゴは普段「しょうちゃん池」で多く見られます。今回ハス除去を目的とした抜水の影響で、しょうちゃん池では採れなかったものの、流れの速い北川で採集できてホッとしました。

魚類調査に携わるようになって3年が経ちます。この短い期間でも北川の魚たちの変化を実感しています。

・ギバチについて

かっぱの会のデータでは初めて、北川でギバチの幼魚が採れました。北川より下流の柳瀬川水系では確認されているそうです。ナマズとよく似ていますがナマズより口ひげが多いのが特徴です。来年も会えるかな？

・カマツカについて

近年北川で増えているカマツカは、関東在来のものではなく、西日本からの国内外来種とされています。川底を這うタイプの魚で、普段は砂と同化しています。

水槽に入ると仲間同士で身を寄せ合い整列する姿も見られます。砂のない水槽では落ち着かないのかもしれませんが、愛嬌がありますが、増えすぎるのは少し心配です。

魚介類測定結果表(北川/北山公園)

実施日 2025/9/13

	種 名	個体数 (相対数)
魚類	コイ	1
	ギンブナ	1
	オイカワ	47
	カワムツ	49
	モツゴ	8
	タモロコ	7
	カマツカ	25
	ドジョウ	13
	メダカ(類)	1
	ヨシノボリ類	1
	ギバチ	2
巻き貝	ヒメタニシ	++
	カワニナ	++
エビ	カワリヌマエビ属	+++
	スジエビ	++
ヤゴ	ヤゴ類	+

+…少ない ++…やや多い +++…多い



・ヨシノボリ類について

一方で、ヨシノボリ類がほとんど採れないことは昨年に続き大きな懸念材料です。今年確認できたのはわずか数匹で、採れる場所も限られていました。ヨシノボリは縄張り意識も強い魚で、いつもムツとしており「一匹でも生きていけますけど！」というオーラを出しています。(個人の感想です)
北川のヨシノボリさんには、自尊心を捨ててでも協力しあって生き延びていただきたいものです。



お知らせ 来年から かつば通信が変わります

次号160号から、かつば通信が変わります。A4サイズのカラー版で、写真等を美しく見られるようになります。文字はやや少なめになりますが、その分、HP、ブログ、インスタなどのネット関係を充実させていく予定です。

かつば通信の模様替え、編集長交代にあたり、元編集長の岡田さんにこれまでの苦労話などをインタビューしました。

🎤 長年の編集長 岡田さんにインタビュー

Q:「かつば通信」の編集を始めたきっかけは？

A: 前編集長の渡辺さんからそろそろ代わってよ、という声から気軽に引き受けてしまいました。

Q: 何年からですか。

A: 2009年の80号から部分的に手伝い始め、75号分、15年になります。

Q: 一番印象に残っている号や記事はどれですか？

A: やはり、100号記念号。18年間のかつばの会の活動を紹介する特集で、通常の倍の16頁構成で大変でした。そのお陰もあってか、新聞2紙(多摩版)に紹介されたのがよかったです。

印象のある記事は、毎号の生き物講座、3人の作者で分担していますが、ネタが尽きないのには感心します。もう一つ、「東村山の方言の中のいきものたち」の連載も面白かったですね。

2013年(平成25年)12月11日(水曜日) 多摩 26

心のいもろと 新りのかみ
高尾山薬王院 多摩

東村山の市民団体
会報が通算100号に
北川の環境保全に取り組み18年

北川町民会報「会報」が通算100号に達した。会報は、北川町の環境保全に取り組み18年を記念して、100号に達した。会報は、北川町の環境保全に取り組み18年を記念して、100号に達した。会報は、北川町の環境保全に取り組み18年を記念して、100号に達した。

市民の憩いの場に再生

北川町の環境保全に取り組み18年を記念して、100号に達した。会報は、北川町の環境保全に取り組み18年を記念して、100号に達した。会報は、北川町の環境保全に取り組み18年を記念して、100号に達した。

Q：編集作業で大変だったことは？

A：記事があふれて紙面に収まらないことがよくありました。レイアウトを考え文章量を計算して作者に依頼しているのですが、それを超えることがまあり、文章を小修正したり、レイアウトを変えたり、押し込むのに苦労しました。ワードでは細かい調整はとても手間なので、一太郎に切り替えました。

Q：逆に一番うれしかったときは？

A：土曜講座の記事で、子どもたちに感想文を書いてもらいました。これが、その行事を楽しく伝えてくれたときは、うれしかったですね。

Q：編集するときに、何を大切にしていましたか？

A：かっぱ通信は、会の広報紙ですが、まずは現場に來られない会員に活動をさらっと伝えることを目標にしました。そのためには、文字ばかりだと読まれないので、写真、イラストを入れること。文章は簡潔であることを意識しました。これは100号発刊のときに、かっぱ通信は簡潔にまとめられていると褒められたのですが、その路線を守る様にしました。記事の分量は1頁を超えるものは少なく、1ページまたは半ページ構成で、どの執筆者も要領よく文章をまとめてくれました。

Q：長年続けてこられた原動力は何でしたか？

A：ある意味、一つのもの作る達成感があります。印刷の作業プロセスもそうです。いろいろ印刷機械を調整したり、おしゃべりしながらの単純作業あったりですが、みんなでわっと2時間作業に集中して、会報が出来ることはある意味楽しいことなのだと思います。かかる時間は無駄ではないのです。

Q：最後に読者や仲間達へメッセージをお願いします！

A：少々マンネリ化してしまっていたので、次号から心機一転、紙の体裁も変わります。紙面を補完するようにWEBページとの連携が図られます。これにより内容が深掘りできるようになればよいですね。



小さな猛禽 ツミ



ある夏の朝、ベットを出て窓から外を見ると、目の前の電線にちょっと大きめの鳥が止まっています。目をこすって何の鳥かとよく見ると、なんとタカの仲間のツミ（メス）です。ガラス越しなのでツミには気づかれず、急いでカメラをセットして撮影することができました。

ツミは日本のタカの仲間では最も小さくて、メスはハトぐらいの大きさで、オスはさらに小さくヒヨドリほどの大きさです。昔から漢字では「雀鷹」と記されていました。主にスズメのような小鳥類を捕食し、巣立ち幼鳥にはそのころ旬のセミもよい餌になっているようです。樹林で繁殖しますが、都市部の大きくなった街路樹に巣を架けることもあり、東村山では北山公園周辺などで繁殖することがあります。冬は多くは南方に渡って行きます。オスは繁殖期にけたたましい声で「ピョーピョピョピョピョ」と鳴くので、この声で存在に気が付くことがよくあります。気が強くてけんかっ早いので、すぐに自分より強い鳥にも戦いを挑んで向かって行きます。しかし、増えすぎたカラスがツミにとっても大きな脅威となっています。

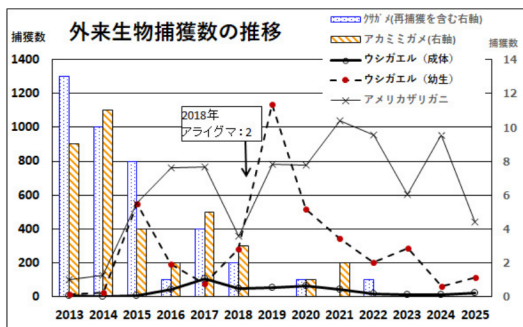
北多摩では東京都レッドリストで絶滅危惧種に該当するので、もしもツミの繁殖を見かけたら、そっと見守ってやって下さい。《ビー永島》

今年の外来生物捕獲結果と

外来生物慰霊祭の開催

北川かっぱの会では、2013年4月より北山公園のしょうちゃん池や菖蒲田周辺で、在来生物の脅威となっている外来生物の捕獲を行っています。今年の捕獲実績は、ウシガエル（成体）22、ウシガエル（幼生）113、アメリカザリガニ441などとなりました（下記の表参照）。この13年間の推移を見ると、北山公園界限では、アカミミガメやクサガメの姿はほとんど見かけられなくなりましたが、ウシガエルは減少傾向にあるものの、依然として多くの姿が見られる状況が続いています。一方、ウシガエルの捕獲が進んだ効果なのか、一昨年から実施している春のカエル類の調査では、トウキョウダルマガエルやシュレーゲルアオガエルの個体数が少し微増傾向にあるようにも感じます。何とかこの傾向が続いてほしいと考えているところです。なお、今年も菖蒲田の水が9月下旬にはほとんどなくなってしまったため、10月初旬で捕獲活動を終了しました。

10月19日には外来生物慰霊祭を開催し、捕獲した外来生物の霊を慰めました（写真）。慰霊祭で改めて感じたことは、個々の外来生物が悪いのではなく、人間の勝手な所業により外来生物が放たれ、多くの在来生物が脅かされ、里山の生物多様性や景観に大きな悪影響を与えているということです。北川かっぱの会では、来年以降も在来生物の生息環境の改善と外来生物の捕獲に取り組んでいきますので、引き続き皆様方のご理解とご支援をお願いします。



お祈りしているね・・・
外来生物を
逃がしちゃいけないんだね



2026年1～3月 活動スケジュール

性別、年齢、経験不問。ご興味のある方は、HP、ブログ、インスタ等で検索して下さい。または、直接会員にお知らせください。

スケジュールは今後、追加や変更となる可能性がありますので、当会のブログやfacebookで最新の情報の入手をお願いいたします。



定例川そうじ

3月以降の毎月第2土曜日 9-11時 → ボランティア募集中！

3/14（土） 集合：北山小正門前 手ぶらで参加できます！



川端会議

2/14（土）10-12時；市民センター → 誰でも参加OKです

北山公園周辺の環境整備について、市、市民、市民団体の話合いの場

野鳥観察会（北山公園と八国山）

1/17（土）10-12時；北山公園あずまや集合（荒天中止）

北山小土曜講座（北山公園と八国山）の開催に併せて実施します

定例会

1/17（土）13-15時；中央公民館第4集会室

2025年に重点的に取り組むべき課題などについて検討

2/28（土）16-17時半；サンパルネ3階イカール

2025年度活動方針案、4月頃までの活動計画の詳細について検討

總會

3/28（土）16:00～18:30開催予定（中央公民館を予定）



🌱 会員募集中 いつでもウエルカム!! 詳しくはHPを検索↑

北山公園一帯の緑の保全と北川の清流復活という夢をもって作られた会です。
一度、活動に参加してみませんか？ 行事参加、入退会は自由です。

🌱 編集後記

長年の歴史を積み重ねてきた かつぱ通信。159号までの歩みは先輩方の偉業ですね。次号からリニューアルします。引き続きよろしくお願いいたします。

発行；北川かつぱの会

連絡アドレス；CZT12221@nifty.ne.jp